

R I. 第2620地区 静岡第2分区 三島西ロータリークラブ

週報

第1998号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F TEL〈055〉976-6351 FAX976-6352例会場 静岡県三島市梅名393-1 ブケ東海三島

会 長 諏訪部照久 幹 事 千葉 慎二

TEL(055)984-0120



広重版画より 三島 朝霧

第2061回例会

2015.2.26雨

司会

登崎久夫君

ロータリーソンク゛

「それでこそロータリー」 指揮 三田明宏君

会長挨拶

会長 諏訪部照久君

皆さん今日は、23日の社会奉仕委員会による盲導犬支援 チャリティコンサートは、大変盛況でした。委員会をはじめ参 加者の皆さん、御苦労さまでした。盲導犬についての現況 は、イギリス79%、アメリカ36%、フランス26%、で日本はわずか 8%の普及率です。又、盲導犬の実働頭数はアメリカ約8000 頭、イギリス約5000頭、フランス約1500頭、日本約1000頭で す。盲導犬の歴史はとても長く、約2000年前に目の不自由な 人と犬が一緒に歩く絵が発見されています。正式には、1819 年にオーストラリアの神父が首輪に棒を付けて訓練したこと から始まり、第一次世界大戦で目が不自由になった人に、ドイ ツで盲導犬が訓練され、そこからアメリカやイギリスと世界中 に広まったとのことです。日本では、1939年にドイツの盲導犬 を輸入したのがはじまりです。しかし、数ある動物のかでなぜ 犬が選ばれたのでしょうか。話は変わりますが「キツネを家畜 化しようとしたら犬になったお話」があります。キツネは攻撃性 が高い上に警戒心が強く、とても家畜化できる動物ではあり ませんが、毛皮業界の思惑で実験が始まりました。攻撃性の 低いキツネを10世代(40年)繰り返した頃、顔が丸くなり、尾尻 を振り、犬のように吠え、人に従順なキツネになりました。この 実験で狼が犬に進化していく過程がより正確に解明された のです。そこで「キツネをペットに」と思いますが、キツネは夜 行性で体臭がきつい等、ペットには不向きなようです。ちなみ に、犬と人間との共生は1万5千年と言われています。気の遠 くなるような年を経て、人間と犬が共生できるようにお互いの DNAに組み込まれたと思います。やはり盲導犬には犬が相 応しい動物ということになるでしょう。

余談になりますが、人間は犬よりも人間の方が長く共生しているのに、なぜ人間同士の揉め事は多いのでしょうか。そこでまた、四つのテストの唱和「好意と友情を深めるか」の声を強めて言いたくなりますが、皆さんはどう思いますか。

──"こんにちは、ようこそ"

ビジター 石井司人君(せせらぎ三島RC)

出席報告

	出席総数	出 席 率	メークアップ	修 出 席 率
前々回	23/38	60.52%	31/38	81.58%
今 回	35/44	79.55%	会員総数	48名

欠席者 石井(彰)君、石井(良)君、窪田君、鈴木(正)君、 花房君、原君、藤江君、前田(房)君、米山君

幹事報告

幹事 千葉慎二君

- ①本日の卓話は、予定していた平野さんに代わり、小野さん。 ②2月23日(月)社会奉仕委員会事業、盲導犬デモ+チャリティ・コンサートへのご協力ありがとうございました。2月25日 付静岡新聞朝刊に記事が掲載されました。
- ③グランドワーク三島からの依頼でご協力戴いた、梅花藻の里・泉トラスト運動、目標の署名1万人を超え、募金も約250万円との報告。これを受けて三島市も土地の購入や施設管理に取り組むことになる予定。
- ④2月14日のIM担当の裾野RCより、参加に対してのお礼 状が届きました。
- ⑤3月第一例会より席替えとなります。本年度最後のテーブ ル組み合わせとなります。

2014~2015年度 国際ロータリー会長 ゲイリーC.K.ホァン

ロータリーに輝きを



TRY DIBUTE

- ◆小野君、建国記念の日の日の丸行進には会長さんはじめ多勢の方々に御参加いただき有難うございました。 又、三嶋大社宮司さんの本葬に当りお忙しい中を多勢の方に御列席いただき盛大に祭儀が終了しました。御協力に深くお礼申し上げます。
- ◆室伏君、チャリティコンサート大盛況でした。お手伝いさせて頂きありがとうございます。
- ◆野田君、久し振りに風邪をひき、2日間寝込んでしまい盲 導犬支援チャリティコンサートに行けなくて残念でした。 でもインフルエンザでなく、早く回復してラッキーでした。
- ◆前田(博)君、早く帰ります。ごめんなさい。

卓 話

狩野川台風の記録と50年目の検証

小野金彌君

1.伊豆半島を襲った狩野川台風

昭和33年9月26日、伊豆半島を襲った台風は、特に狩野川流域で、死者684名、行方不明者169名、家屋の全壊・流出・半壊8,219戸と甚大な被害を残しました。気象庁は後にこの台風を「狩野川台風」と命名し、特に被害の大きな台風に地名を付けるようになった契機となりました。

2.大災害に至った要因

①長雨と集中豪雨

狩野川台風前の9月17日、伊豆半島に台風21号が上陸し、 狩野川上流域に250mmを超える雨を降らせました。そして、 その後も秋雨前線の影響で雨が降り続いていたところに狩野川台風が襲来し、大量の雨をもたらしたことで、山々はこれ らの雨を地中に吸い込むことができず、山崩れや土石流を発 生させ被害を拡大させました。

②上流部での土石流の多発

当時は、戦争中の燃料としての薪や戦後の復興のため、山から大量に木が切り出され、伐採跡地や植林されたばかりの林が数多くありました。狩野川台風の大雨によって、このような植生で覆われていない箇所から、数多くの土砂崩れや土石流が発生しました。

③修善寺橋による閉塞

上流から流された大量の土砂や流木は、修善寺橋の橋脚や橋桁に引っ掛かり橋の下を閉塞してダムのような状態になってしまいました。水圧にたえきれなくなった修善寺橋は倒壊し、上流に溜まっていた大量の水が一気に下流に流れだし、さらには破堤を引き起こし、下流の地区に大被害を及ばしました。

④情報伝達手段の未整備

昭和33年当時、災害情報の主な伝達方法は、ラジオ・半鐘・ 有線放送・消防団による水防活動などでした。しかし、狩野川 台風が襲ってきたときには、ラジオ、有線放送は停電のため 使用できなくなり、半鐘や消防団による水防活動は、豪雨や 浸水などにより、十分な効果を発揮することができませんでし た。

⑤防災意識の不足

昭和以降、大きな人的被害をともなう洪水が起きていなかったため、地域の住民は、狩野川の氾濫に対してあまり危機意識をもっていませんでした。

3.狩野川台風以降の取り組み

狩野川上流の山地では、災害発生後から砂防事業や植林が進められ、緑豊かな山に戻りつつあります。また中・下流域では、川幅の拡幅や堤防の強化、放水路の整備など治水対策が継続して進められています。

4.最後に

「災害は忘れた頃にやってくる」との言葉のとおり、100年の 安泰はありません。賢明な知恵によって、災害にあわないよう 皆さんそれぞれが気を付けてゆきましょう。



(週報担当:坂本和也)